

緊急報告

危機に立つ 生物多様性

COP10 パートナースシップ事業



「天国に一番近い島」で今何が？ ニューカレドニア・ニッケル開発事業を事例に

ニューカレドニア南部で、今、大規模なニッケル開発プロジェクトが進行しています。

当該地域は世界でも類をみない豊かな生物多様性を誇る地域であり、金属を多く含んだ特殊な土壌により、長い年月をかけて地域固有の植生がはぐくまれてきました。河川と海水が入り混じる汽水域や湾は、ユニークな海洋生態系を形成し、多くの魚類のゆりかごとなっています。周辺には美しいサンゴ礁が広がり、海域のラグーン（環礁）は、2008年に世界遺産に指定されています。



この豊かな自然は、ニッケル開発事業によりどのような影響を受けるのでしょうか。また、自然をよりどころにしてきた先住民族の生活や文化は、どうなるのでしょうか。私たち日本人との関わりはどのようなものなのでしょうか。

本セミナーでは、特別ゲストとして、「メタル・ウォーズ」「入門・資源危機—国益と地球益のジレンマ」の著者、資源環境ジャーナリストの谷口正次さんをお招きし、天国に一番近い島で進行する生物多様性の危機について緊急報告を行います。



■日時：2009年6月3日（水） 14:00～16:30

■場所：環境パートナーシップオフィス

■プログラム

開会 14:00

イントロダクション：ニッケル開発と私たちの暮らし～日本人として直視すべきこと 14:05-14:25
清水規子（国際環境 NGO FoE Japan）

【特別報告】生物多様性の危機：ニューカレドニアからの報告 14:25-15:25
谷口正次（資源環境ジャーナリスト）

＜質疑＞ 15:25-15:35

融資のルールで生物多様性は守れるか 15:35-15:55
満田夏花（地球・人間環境フォーラム）

＜質疑・議論＞ 15:55-16:30

■主催：国際環境 NGO FoE Japan、地球・人間環境フォーラム

■後援：CBD（生物多様性条約）市民ネット

■協力：アジア太平洋資料センター（PARC）、「環境・持続社会」研究センター（JACES）

環境を考える経済人の会 21（B-LIFE21）、コンサベーション・インターナショナル

サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク（NSC）、サステナビリティ日本フォーラム

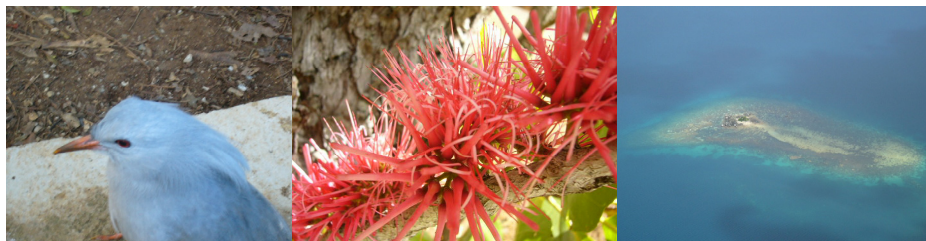
日本環境ジャーナリストの会（JEFJ）、社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会（NACS）、

日本消費者連盟、IUCN 日本委員会、WWF ジャパン

緊急セミナー: 危機に立つ生物多様性「天国に一番近い島」で今何が？

イントロダクション

ニッケル開発と私たちの暮らし～日本人として直視すべきこと



国際環境NGO FoE Japan
清水規子
shimizu@foejapan.org



発表の内容

1. FoE Japanと事業の関わり
2. Vale Inco Nouvelle-Calédonie Projectの概要
3. 日本人とニッケル



1. FoE Japanと事業のかかわり



清水規子 (国際環境NGO FoE Japan)

FoE Japan 「開発金融と環境プログラム」紹介

日本が関わる海外の開発事業の、環境や社会への負の影響を、問題解決・改善するための活動

- 融資機関等の環境・社会への配慮基準に関する提言活動
例: 国際協力銀行 (JBIC)、日本貿易保険、国際協力機構
アジア開発銀行等の国際金融機関
- 開発事業のモニタリング
例: サハリンⅡ 石油・ガス開発事業 (露)
リオツバニッケル事業 (比)
- 国際・国内ネットワークの構築
- 情報発信、勉強会やセミナーの開催



緊急報告: 危機に立つ生物多様性(2009年6月3日) 主催: 国際環境NGO FoE Japan、地球・人間環境フォーラム

FoE Japanと事業との関わり

ニューカレドニアおよび加・米NGOが、事業の環境への影響を懸念

- 2005年7月：ニューカレドニアおよび米NGOが来日し、セミナー開催。また企業やJBICなどと会合。
- 2007年10月：FoE Japan主催のセミナーののスピーカーとして、ニューカレドニアの先住民族団体Rheebu Nuuの代表が来日。JBIC等との会合も。
- 2007年11月：米NGO等と現地訪問
→大学やセミナー等における講演
- 2009年4月：現地訪問



FoE Japan

2007年セミナーの様子

今回の現地訪問

《目的》

JBICによる本格的な融資検討を受け、ガイドラインを遵守の有無に関する確認及び現状把握

《現地での会合》

- ・ ニューカレドニア・南部州の環境局
- ・ ニューカレドニア・鉱業局
- ・ Vale Inco Nouvelle-Calédonie
- ・ Senat Coutumier
- ・ Conseil Coutumier
- ・ 先住民族 (Ile Ouen, Wao, Goro, Saint Louis, Conception, Unia, Touaurou) 先住民族との会合の様子
- ・ 先住民族団体 Rheebu Nuu
- ・ 現地NGO (Point Zero, CodefSud)
- ・ 植物・海洋生物学者



先住民族との会合の様子

FoE Japan

6

2. 事業概要

FoE Japan

事業の場所

鉾山製錬所位置図



資源開発環境調査 ニューカレドニア((独)石油ガス・金属鉱物資源機構)より



事業の精錬所



事業地近くの海

事業の概要

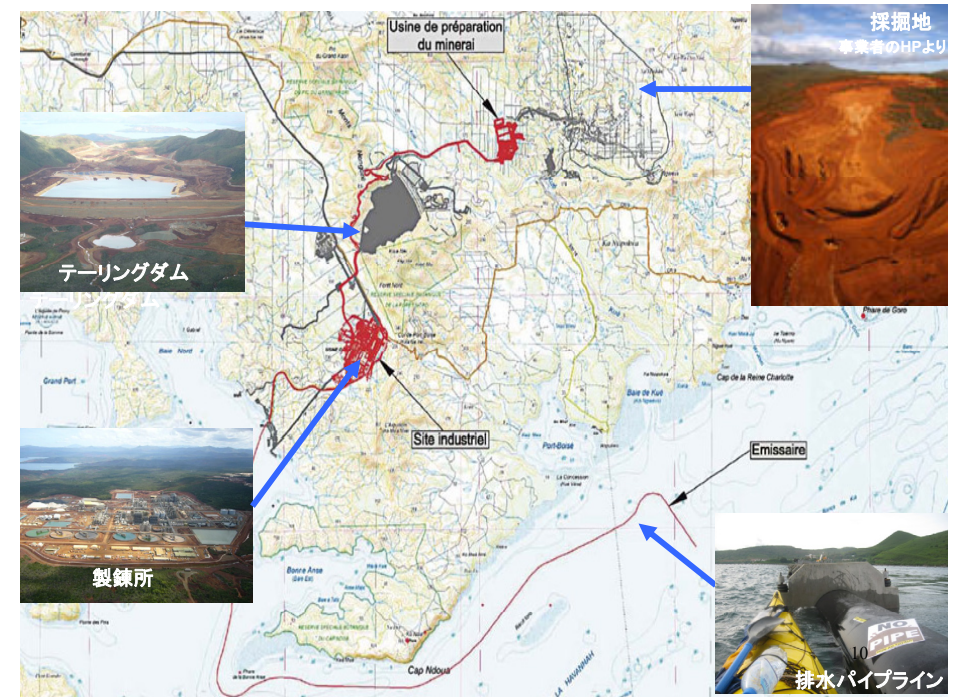
- 場所: 仏領ニューカレドニア南部州、ゴロ及びプロニー地区
- 目的: 大規模ニッケル酸化鉱床開発。年間、酸化ニッケル約60,000トン、炭酸コバルト約4,600～5,500トンの生産を見込んでいる。採掘期間は30年間。
- 総事業費: 32億米ドル
- 事業者: Vale Inco Nouvelle-Calédonie S.A.S.
- 融資機関: JBICが、今年の1月に融資検討を正式に公表。現在、環境レビュー中。

事業者の資本構成



Vale Inco Nouvelle-Calédonie S.A.S. のHPより

9



事業の経緯

1969年	加インコ社の子会社、地質調査とサンプリング	01年10月: 先住民族の代表がカナダ訪問。インコ社重役と会合を持ち、事業の問題をうたえる
1992年	インコ社、ゴロ地域における採掘権を獲得	
1996年	フィージビリティ調査の実施	04年2・3月: Rheebeu Nuuiによる道路封鎖
1999年	パイロットプラントの建設	→その後、事業者がRheebeu Nuuiとその代表を訴える
2002年	建設開始⇒工事停止(過剰支出のため)	
2005年	工事再開 環境アセスメント報告書完成	06年4月: Rheebeu Nuui 道路封鎖のため3週間操業停止。仏警察も出動。
2006年	CVRD Brasilがインコ社を買収	06年6月: 裁判により操業許可取り消しの判決
2008年	工事終了 先住民族との協定締結	06年11月、テーリングダムの工事一時差し止め判決(パリ)
2009年	段階的な生産の開始	08年2月: 先住民族が、排水パイプライン敷設工事に反対し直接行動
2013年	フル操業開始予定	09年4月: 試験操業中に硫酸流出事故があり、80%の操業停止。

FoE Japan



先住民族の抗議行動の様子

3. 日本人とニッケル



身近にあるニッケル

●ニッケルとは？

耐熱、耐食、耐摩擦性に優れたレアメタル(希少金属)。

古くから光沢・加工性の良さから、装身具、洋食器などに広く使用。

特に、戦後のステンレス工業の発展に伴い需要が飛躍的に増大。

● 日本における分野別ニッケル消費量(推定)

単位：純分千

	ステンレス鋼分野	IT関連分野	その他	計
2002年	110(60%)	61(33%)	13(7%)	184(100%)

(社)特殊金属備蓄協会報告書より

冷蔵庫

50円、100円玉

関西国際空港の屋根

車のモール

携帯電話の部品



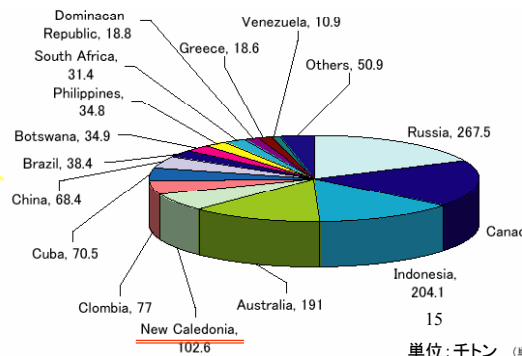
世界のニッケル埋蔵量とニューカレドニア(2008年)

順位		埋蔵量 (Reserves)	シェア
1	豪州	24,000,000	35.8%
2	ニューカレドニア	7,100,000	10.6%
3	ロシア	6,600,000	9.9%
4	キューバ	5,600,000	8.4%
5	カナダ	4,900,000	7.3%
6	ブラジル	4,500,000	6.7%
7	南ア	3,700,000	5.5%
8	インドネシア	3,200,000	4.8%
9	フィリピン	940,000	1.4%
10	コロンビア	830,000	1.2%
	上位5か国計	48,200,000	71.9%
	上位10か国計	60,540,000	90.4%
	世界計	67,000,000	

(出典：Mineral Commodity Summaries)

国別ニッケル埋蔵量 (2008年)

ニューカレドニアは、世界第2位



国別ニッケル鉱石生産量(2008年)

ニューカレドニアは、世界5位

いずれの図も、JOGMEC、金属資源レポート(2009年3月)より

清水規子(国際環境NGO FoE Japan)

日本のニッケル消費

● 日本は、全世界のニッケル消費量の13%(2006年)を占め、第2位の消費国。

単位: ニッケル純分千t

	1996年	シェア	2005年	シェア	増減	シェア	増減年率
ブラジル	15.4	1.7%	25.8	2.0%	10.4	0.3%	7.5%
ロシア・CIS	37.2	4.1%	28.9	2.2%	-8.3	-1.8%	-2.5%
インド	18.5	2.0%	16.0	1.2%	-2.5	-0.8%	-1.5%
中国	46.3	5.1%	200.8	15.5%	154.5	10.4%	37.1%
BRICs計	117.4	12.8%	271.5	21.0%	154.1	8.1%	14.6%
日本	187.1	20.4%	171.0	13.2%	-16.1	-7.2%	-1.0%
米国	119.3	13.0%	128.0	9.9%	8.7	-3.1%	0.8%
欧州(ロシア除く)	326.8	35.7%	435.6	33.6%	108.8	-2.0%	3.7%
世界全体	916.6		1,295.5		378.9		4.6%

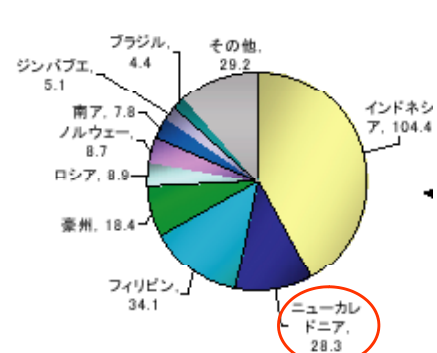
出典: WBMSをもとに算出

JOGMEC、「鉱種別デマンドサイド分析2006(4)-ニッケル-」より



日本のニッケル消費

●2007年ニッケル総輸入量のうち、約3割がニューカレドニア



2007年の総輸入量: 249千t
Ni純分、単位: 千t

JOGMEC、金属資源レポート(2009年3月)より

FOE Japan



事業のニッケル採掘地

事業者のHPより 17

まとめ

資源開発・利用の問題について総合的な取り組みが必要
(政府の政策や役割、融資機関の責任、企業の責任、私たちの暮らし)



今日は、特に、事業に対する融資機関(JBIC)の責任について



【特別報告】 生物多様性の危機： ニューカレドニアからの報告

谷口正次
(資源環境ジャーナリスト)



超塩基性岩石(ペリドタイト)の分布

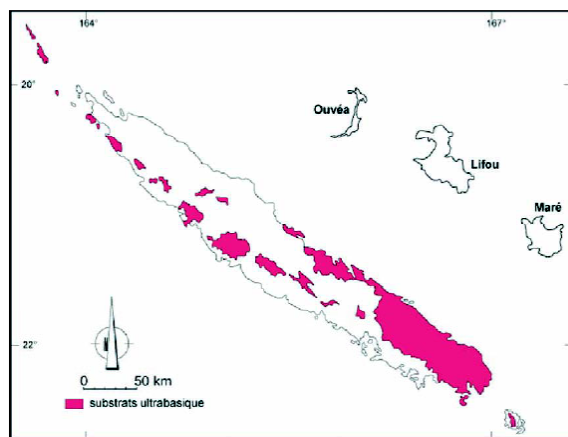
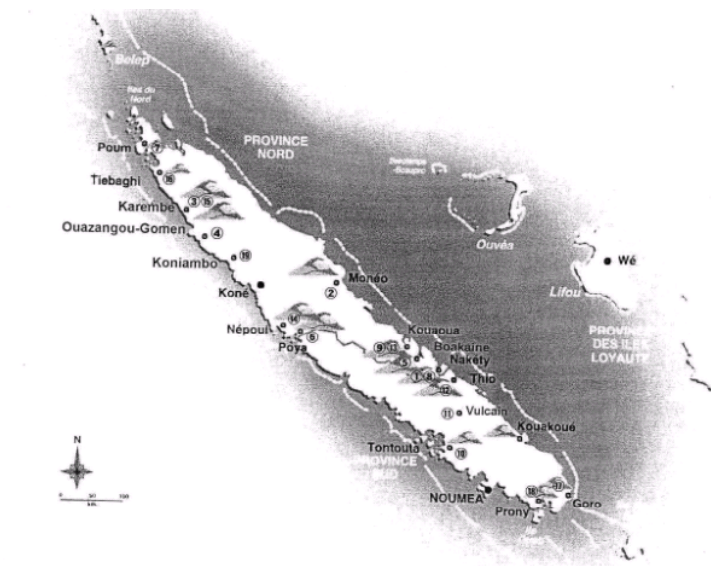


FIGURE 1. - Les terrains ultrabasiques en Nouvelle-Calédonie couvrent environ un tiers de la superficie de la Grande Terre, soit environ 5 500 km²

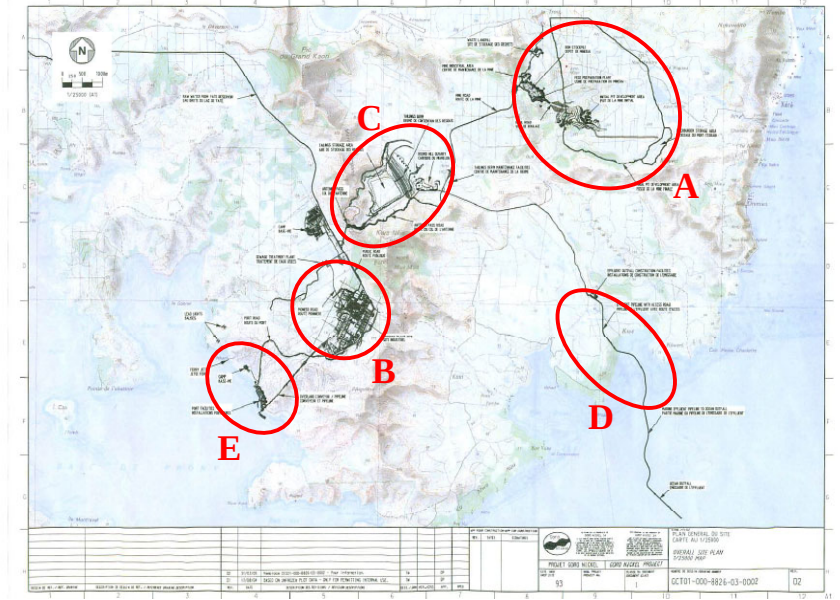
New Caledonia Nickel Mine



工場着工前



ゴロー・Jニッケル鉱山レイアウト



湿式製錬工場(2009・4)



谷口正次(資源環境ジャーナリスト)

湿式製錬工場(2009・4)



緊急報告:危機に立つ生物多様性(2009年6月3日) 主催:国際環境NGO FoE Japan、地球・人間環境フォーラム

湿式製錬工場(2009・4)



湿式製錬工場(2009・4)



湿式製錬工場(2009・4)



テーリングス・ダム



テーリングス・ダム建設現場(2006・11)



Ni, Co 採掘場



Ni, Co 採掘場とクエ・ウエスト川



クエ・ウエスト川沿いのドリーネ群



表土堆積場(2009・4)遠方は採掘場



表土堆積場(左手前)と採掘場(前方右)



クウェ・ウエスト川(2009・4)



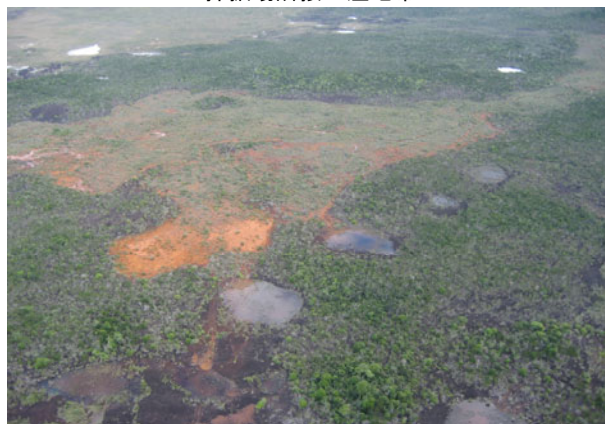
クウェ・ウエスト川の汚染状況(2009・4)



クウェ・ウエスト川河口(2009・4)



採掘場隣接の湿地帯



Ni、旧鉱山採掘跡



湿式製錬工場とプロニー湾を望む



表土掘削作業(2006・11)



鉱山採掘場表土掘削作業



採掘現場の地すべり状況(2006・11)



Ni鉱石



固有種の寄生植物(アミエナ・スカンデンス)
2006・11撮影



湿式製錬工場隣接の特別植物保護区



工場隣接特別植物保護区(2006・11)



固有種の花



谷口正次(資源環境ジャーナリスト)

工場隣接特別植物保護区看板(2006・11)



特別植物保護区端を横切るパイプ(看板撤去2009・4)



製品出荷・資材荷上げ桟橋(2006・11)



ゴロー地区への赤泥の浸出状況(2006・11)



ゴロー地区への赤泥の浸出状況(2006・11)



特別植物保護区



Niの探鉱跡



固有種90%以上の灌木林を突っ切る鉱山道路



固有種90%以上の灌木林 (maquis miniers)



鉱山開発による生態系・生物多様性への影響

	Mining Activities											
	Exploration and construction											
	Early stages of exploration											
	Exploration drilling											
	Access road construction											
	Land clearance (for construction, etc.)											
	Construction related materials											
	Construction of ancillary infrastructure											
	Roads, rail & export infrastructure											
	Pipelines for slurries or concentrates											
	Energy/power & transmission											
	Water sources & transmission											
	Transport											
POTENTIAL IMPACTS												
Impacts on terrestrial biodiversity												
Loss of ecosystems and habitats				●	●	●	●		●	●	●	●
Loss of rare and endangered species				●	●	●	●	●	●	●	●	●
Effects on sensitive or migratory species				●	●	●	●	●	●	●	●	●
Effects of induced development on biodiversity					●	●	●		●			●
Aquatic biodiversity & impacts of discharges												
Altered hydrologic regimes					●	●	●	●	●		●	●
Altered hydrogeological regimes				●			●					
Increased heavy metals, acidity or pollution				●		●	●	●	●		●	●
Increased turbidity (suspended solids)				●	●	●	●	●	●	●	●	●
Risk of groundwater contamination				●			●	●	●	●		●
Air quality related impacts on biodiversity												
Increased ambient particulates (TSP)				●	●	●	●	●	●		●	●
Increased ambient sulfur dioxide (SO ₂)								●			●	●
Increased ambient oxides of nitrogen (NO _x)								●			●	●
Increased ambient heavy metals											●	
Social interfaces with biodiversity												
Loss of access to fisheries						●	●		●	●	●	
Loss of access to fruit trees, medicinal plants						●	●	●	●	●	●	
Loss of access to forage crops or grazing					●	●	●	●	●	●	●	
Restricted access to biodiversity resources						●	●		●	●	●	
Increased hunting pressures				●	●	●	●	●	●		●	●
Induced development impacts on biodiversity					●	●	●	●	●		●	●

Encadré 3 – Exemple de grille d'analyse des impacts des activités minières sur la biodiversité
- à adapter (Source : ICMM, 2006).

精錬工場をガードする軍隊



先住民の反対運動リブ・ヌウ(大地の目)



2006年4月、暴動発生、重機・ポンプ室破壊



テーリング・ダム工事差止め仮処分決定(2007/11)

TRIBUNAL
DE GRANDE
INSTANCE
DE PARIS

ORDONNANCE DE RÉFÉRÉ
rendue le 21 novembre 2006

N° RD :
04/59236
06/59238

N° : 1/FF

Assignment de :
06 Octobre 2006

par Louis Marie RAINGEARD DE LA BLETIERRE, Premier Vice-Président
au Tribunal de Grande Instance de Paris, tenant l'audience publique des
Référé par délégation du Président du Tribunal,
assisté de Michèle SEGUIN, Greffier.

DEMANDEURS

Association COMITÉ RREBU NUU
Maire de Yaté - NOUVELLE CALÉDONIE

Monsieur AKOUGNI Hippolyte
Tribu de GORO - NOUVELLE CALÉDONIE

Monsieur Alfred AGOURERE
Tribu de GORO - NOUVELLE CALÉDONIE

Monsieur Marie de Kamie ATITI
Tribu de GORO - NOUVELLE CALÉDONIE

Madame Lola TARA
Tribu de TOUADOUROU - NOUVELLE CALÉDONIE

Monsieur Jean Yves VAMA
Tribu de GORO - NOUVELLE CALÉDONIE

Monsieur Eddy ATITI
Port Boisé Tribu de GORO - NOUVELLE CALÉDONIE

Madame Marie France TARA
Tribu de WAHO - NOUVELLE CALÉDONIE

Monsieur Eustache VAMA

排水パイプ敷設妨害



リブ・ヌウと漁民による排水パイプ敷設妨害



谷口正次(資源環境ジャーナリスト)

NCのNGO Mike Hosken



緊急報告:危機に立つ生物多様性(2009年6月3日) 主催:国際環境NGO FoE Japan、地球・人間環境フォーラム

先住民部族長会議(セナ・クチュミエ)との面談



ウエン島の人たち(漁民)との対話



ウエン島の漁民のタブー



サン・ルイ地区の有力者達(独立派)



谷口正次(資源環境ジャーナリスト)

サン・ルイ地区集会場(独立派の牙城)



南部州知事フィリップ・ゴメス(カレドニア・アンサンブル党首)
選挙運動のためにサン・レイに来た



Goro 鉱山を巡る動き

- 1、2002-4 Inco社、開発工事着工延期(環境・ファイナンス)
- 2、2004-11 工事再開、住友金属鉱山・三井物産、21%権益取得(14.5億ドルのプロジェクト)
- 3、2006-4 先住民の暴動、4週間工事中止(1,000万ドル損)
- 4、2006-6 NC統治裁判所、operation license取消
- 5、2006-10 CVRD社、Inco社買収(2兆円)
- 6、2006-11 パリ大審裁判所、tailing dam 工事差止仮処分(48h以内、30,000EUR/d 罰金)
- 7、2006-12 CVRD社発表(完成mid2008, 工事費30億ドル)
- 8、逮捕された先住民16人判決(8人無罪、8人10万F罰金)
- 9、2006-12 ニッケル価格(LME(cash)35,000USD、在庫2d)
- 10、2007-1 CVRD 大審裁判所に不服申し立て、
- 11、2007-2 工事差止仮処分撤回

Goro 鉱山を巡る動き

- 12、2007-3 IRD科学者、所長への公開質問状提出
- 13、2008-9 関係先住民族族長・Rheebu Nuu・Vale/Inco・南部州政府 との間でPacte締結、反対から監視への転換
- 14、2008-10 Vale/Inco 取り消された操業許可再取得
- 15、2009-3 Ni/Co湿式精錬工場完成、試運転開始
多量の硫酸流出事故発生、多数の魚死骸発生、従業員の通報により判明、工場操業停止命令、警察捜査、刑事・民事訴訟、ロイド保険会社調査

New Caledonia Kanak people's legend A hero Tea Kanake, five stages of his life

- 1st: The origin of beings. At the dawn of the world.
- 2nd: The earth that nourishes us. He asks the spirits to teach him the knowledge he needs to live in the earth.
- 3rd: The land of the ancestors. He builds his home. He plants the Column Pine which makes the sacred and tabu places.
- 4th: He decides to experience death in order to learn all about human life and he visits the land of the dead, abyss. He enters the Banyan tree which is the body of the spirits.
- 5th: The rebirth like the shoots which emerge with new life from the stump of felled tree.

2009年6月3日
緊急報告会:危機に立つ生物多様性
「天国に一番近い島」で今何が？
ニューカレドニア・ニッケル開発事業を事例に

融資のルールで 生物多様性は守れるか

地球・人間環境フォーラム
満田 夏花 (みつた・かな)

1

世界銀行セーフガード・ポリシー

- 重要な自然生息地の著しい転換または劣化を伴うと判断される事業には、支援をしない (OP4.04パラ4)

IFCパフォーマンス・スタンダード

- 顧客は、重要な生息地では、以下の要求事項を満たさない限りいかなる事業活動も実行しない (基準6、パラ10)
 - 重要な生息地の能力に対する負の影響が予測されない場合
 - 絶滅の危機に瀕している、もしくは絶滅のおそれがあるとされる種の個体数が減少しない場合
 - いかなる小さな影響も緩和されている場合

2

HSBCのセクター別ガイドライン

- 熱帯原生林、保護価値の高い森林、重要な生息地において、著しい転換や劣化が生じる操業には融資を行わない (鉱業・金属セクター政策、エネルギーセクター・リスク政策、淡水インフラセクターガイドライン)
- 以下には、いかなる形での融資も支援も行わない (森林セクターガイドライン)
 - 重要な自然生息域において実施され、これを著しく劣化または転換する事業。保護価値の高い森林における商業伐採、CITESのAppendix Iのリストに含まれる種の伐採など
 - 上記からの購入、取引、加工を行う企業

3

国際協力銀行 (JBIC) 環境ガイドライン

- プロジェクトは、原則として、政府が法令等により自然保護や文化遺産保護のために特に指定した地域の外で実施されねばならない。また、このような指定地域に重大な影響を及ぼすものであってはならない。
(参考) 現在改定中の新環境ガイドラインにおいては、「重要な自然生息地または重要な森林の著しい転換または著しい劣化の回避」が盛り込まれる見込み。

4

(参考) 「保護価値の高い森林」とは？

下記のいずれかの特徴の一つ以上有している。

- 世界的、地域的または国ごとにみて生物多様性の価値が集中している森林：保護地域、脅威にさらされている種および絶滅危惧種が生息している、固有種が生息している、繁殖地、越冬地、移動ルート、季節に応じた重要な生息地など
- 世界的、地域的または国ごとにみて、重要で広大なランドスケープレベルの森林（原生林など）
- 希少で、脅威にさらされているまたは危機に瀕している生態系の中にあるか、またはそれを含む森林
- 地域コミュニティの基本的ニーズを満たすために欠かせない森林
- 地域コミュニティの伝統的文化的アイデンティティに重要な森林 など

5

生息地の転換による生物多様性への影響



「生態系サービスと人類の将来—国連ミレニアムエコシステム評価」

6

ニューカレドニア・ゴロニッケル事業は、融資基準をクリアするか？

7

重要な自然生息地や保護価値の高い生息地の著しい転換または劣化を伴うと判断される事業には、支援をしない
(世界銀行、HSBC他)

顧客は、重要な生息地では、以下の要求事項を満たさない限り、いかなる事業活動も実行しない (IFC)

- ✓重要な生息地の能力に対する負の影響が予測されない場合
- ✓絶滅の危機に瀕している、もしくは絶滅のおそれがあるとされる種の個体数が減少しない場合
- ✓いかなる小さな影響も緩和されている場合

8



事業地において多く見られる「マキ」の植生タイプの一つ (Maquis ligno-herbacé)

「工場建設予定地は、植物相の豊かさと独特さによって特徴づけられる。」

維管束植物が242種確認され、そのうちの229種が固有種であった。固有種の率は94%にのぼった。」

(Goro Nickel: *Installations Classées pour la Protection de l'Environnement*)

事業地域は「重要な生息地」

事業地周辺^(注1)の植生

- 14の植生タイプ (森林6タイプ、maquis＝灌木林6タイプ含む)
- 森林およびmaquisの植生タイプは、ほとんどが90%以上の固有種^(注2)
- 14のCritically Endangered種 (CR)、10の絶滅危機種 (EN)、40の危急種 (VU) を含む70種のレッドリスト記載種がインベントリー化されている

Tableau 5 : Diversité floristique et distribution des espèces de maquis dans la zone de référence (IRD, 2003)

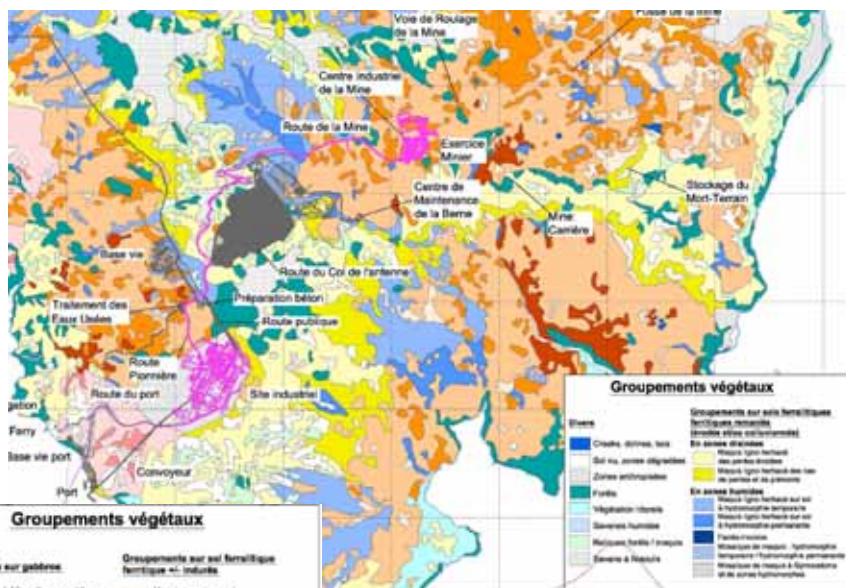
Ecotype	Surface (ha)	Occupation des sols par rapport à la surface des formations de maquis (%)	Occupation des sols par rapport à la zone de référence (%)	Nombre d'espèces inventoriées	Nombre d'espèces autochtones	Proportion d'espèces autochtones
Maquis des zones humides	9400	20	34	198	181	91%
Maquis arborescent à parastrephes	4118	9	6	206	362	92%
Maquis ligno-herbacé bien drainés	21457	45	32	132	121	90%
Maquis ouvert sur sol calcaire à densité élevée par <i>Gymnosoma</i>	10006	21	15	214	201	94%
Groupements sur gabbros	2999	6	4	88	78	89%
Maquis sur serpentines	161	0	0	88	81	91%
Total formations de maquis	48071	100	72	547	494	90%

(出典) Goro Nickel, 2007, *Installations Classées pour la Protection de l'Environnement*

注1) ニューカレドニア最南端Grand Sud) 約6万ha。調査時期は主として着工後のもの。

注2) 固有種の率が非常に高いと言われるニューカレドニア全土の平均よりも、さらに高い割合を示している。

10



事業地周辺の植生

(Goro Nickel, 2007, *Installations Classées pour la Protection de l'Environnement*)

11

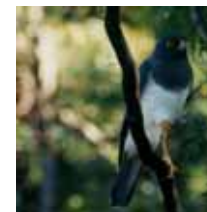
鳥類

- 陸域: 32種が確認、うち12種が固有種、3種がIUCN記載種 (調査は2003年、2004年^注)
- 事業地周辺に鳥類のコリドー
- 海域: 周辺で繁殖しているもの25種、渡来するもの26種。うち、危急種 (VU) 5種、準絶滅危惧種1種。



海洋生態系

- プロニー湾は魚類のゆりかご
- 豊富で多様な珊瑚礁
- ウミガメ、ジュゴン、クジラ、イルカ...



Goro Nickel, 2007, *Installations Classées pour la Protection de l'Environnement*

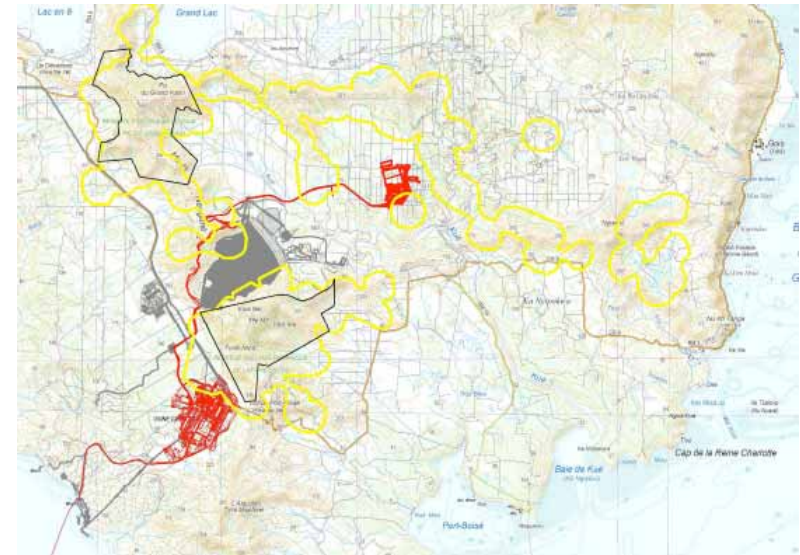
注) 着工後の調査

12



大面積にわたる剝土＝「著しい転換・劣化」
その他の直接影響・間接影響

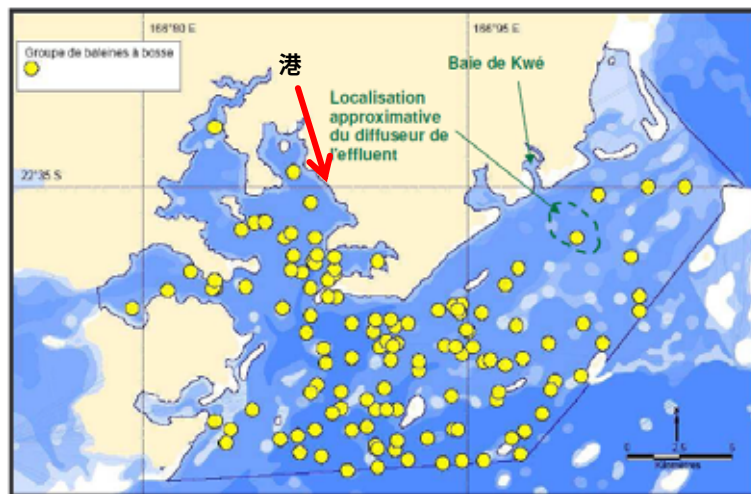
13



鳥類（陸域）のコリドー（図中の黄色く囲まれた部分）
(extrait du rapport de l'IAC de juillet 2004). (注：着工後の調査)

14

Figure 17 Distribution spatiale des groupes de baleines à bosse recensés dans la zone du projet en 2000 et 2005 (source Opération Cétacés)



プロジェクト地域におけるザトウクジラの群れの出現箇所 (2000-2005)

Goro Nickel, 2007, *Installations Classées pour la Protection de l'Environnement*

15

プロジェクトは、原則として、政府が法令等により自然保護や文化遺産保護のために特に指定した地域の外で実施されねばならない。また、このような指定地域に重大な影響を及ぼすものであってはならない。

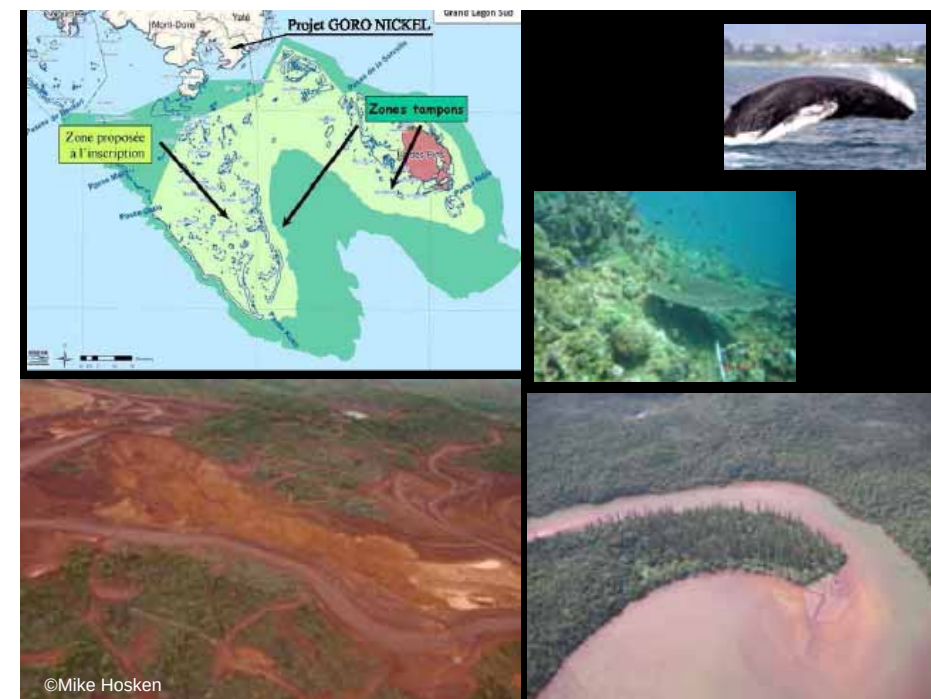
(国際協力銀行)

16



二つの植生保護区および海域の世界遺産地域への影響は不可避

17



©Mike Hosken

(基本的事項)

プロジェクトを実施するにあたっては、その計画段階で、プロジェクトがもたらす環境への影響について、できる限り早期から、調査・検討を行い、これを回避・最小化するような代替案や緩和策を検討し、その結果をプロジェクト計画に反映しなければならない。

(国際協力銀行)

19

「事業の最初から、ヤテの住民は環境問題懸念持っていました。しかし、州は事業者の味方で、十分な調査がなされないうちに事業を許可しました。世界でも有数の生物多様性を誇る地域で、配慮しないまま事業が進められたのです」

(Sénat Coutumier<先住民族議会>との会合で。2009年4月)



20

(社会的合意)

…プロジェクト計画の代替案を検討するような早期の段階から、情報が公開された上で、地域住民等のステークホルダーとの十分な協議を経て、その結果がプロジェクト内容に反映されていることが必要である。

(国際協力銀行)

21

「事業者からの説明は、いつも事後報告でした」

「工事がはじまってから、赤土の影響で、河口における漁業ができなくなりました。それまでは川の奥まで入って魚をとっていたのですが、今は魚が減り、そういうことはなくなりました。」

(先住民族部族 Ile Ouen との会合、
2009年4月)



22

(先住民族)

…土地及び資源に関する先住民族の諸権利が尊重されるとともに、十分な情報に基づいて先住民族の合意が得られるよう努めねばならない。

(国際協力銀行)

23

「事業者と先住民族との協定が成立しようがしまいが、事業はどんどん進んでいきました。」

(Sénat Coutumier <先住民族議会> との会合)

「今が着工前だったとしたら、いろいろと情報をえているのでNoと言ったと思います。」

(先住民族部族 Ile Ouen との会合)

「事業者との協定にサインしたのは、そうせざるを得なかったから。手足を縛られて死刑台に上るような気持ちでサインした」

(先住民族部族の Saint Louis との会合)



融資のルールで生物多様性は 守れるか

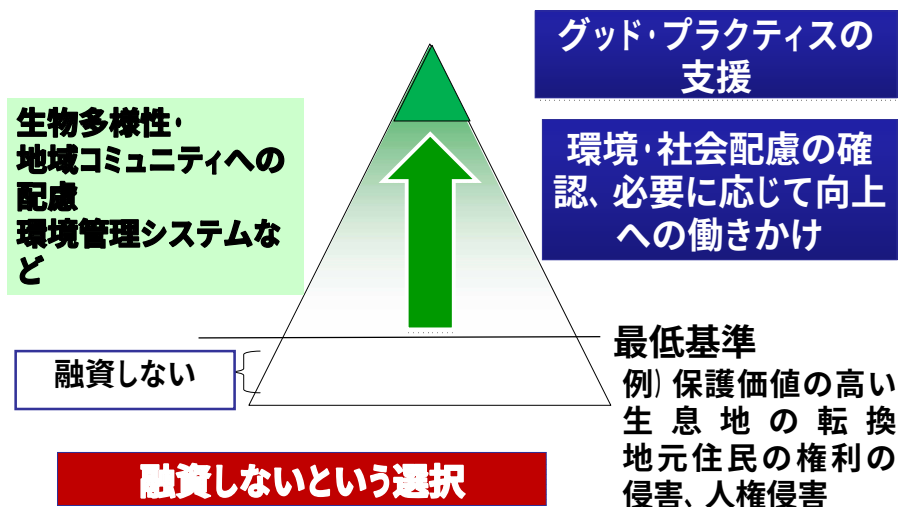
25

守れる。

- 融資者が自らの融資基準を誠実に遵守し、事業者や関係者に明確なメッセージを送り続けるならば。
- 世界中でわずかに残された「重要な生息地」「保護価値の高い生態系」を守るという強い意思を示すならば。

26

責任ある融資



一方で・・・

- 問われる関係企業の行動
- 大量消費社会の見直し
- 循環型・低消費の社会・経済・文化の確立
- 「ゾーニング」の確立
＝重要な生息地の保護戦略への組み込み。
その過程で必要とされるステークホルダーの参加

国家資源獲得戦略に生物多様性戦略を
組み込むための、真剣な議論が必要

28